

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	1 教育目的
中項目	
小項目	1.0.1 教育目的
要素	高度な会計職業人養成を目的とした専門職大学院(以下「会計大学院」という。)においては、その創意をもって、将来の会計職業人(会計・監査に関係する業務に携わる者)が備えるべき高い倫理観、実務に必要な学識及びその応用能力並びに会計実務の基礎的素養を涵養するために、教育目的を明文化すること。
小項目	1.0.2 教育目的の達成
要素	①1-0-1の目的が達成されるように、各会計大学院は養成しようとする会計職業人像に適った教育を行うこと。 ②1-0-1の目的を達成し、1-0-2①の教育を実現するために、各会計大学院は教育の理念や目的を具体的に示し、それらと矛盾しない体系的な教育を施し、その教育を貫徹するために成績評価と修了認定を厳格に行うこと。 ③各会計大学院は1-0-2②が実施されているかどうかをレビューする第三者評価を尊重し、教育目的を達成するための努力を継続して行うこと。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育目的達成のためのカリキュラムの基本的枠組みとして各開講科目間の関係を文書化する。	→分野別科目群別開講科目数	D
2. 厳格な成績評価を行うために、絶対評価を加味した相対評価による成績評価を導入する。そのための評価方針を作成する。	→絶対評価を加味した相対評価による成績評価の導入状況	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

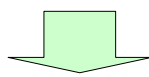
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目1.0.1	(教育目的) 本学の会計教育・研究は、一貫して米国型の会計を基礎とするものであり、グローバルな視点からの教育・研究に取り組んできている。そして今後は、国際会計士連盟(International Federation of Accountants: IFAC)の国際教育基準(International Education Standards: IES)の内容を尊重して、グローバルな視野をもって世界に貢献し得る公認会計士等の職業会計人を育成することが、本学会計専門職専攻の使命である。会計専門職専攻では、こうした本学の伝統や使命に基づき、「国際的なレベルで世界に貢献し得る公認会計士等の職業会計人を養成する」ことを目的とする。 (現状説明) 上記の理念、目的に従い、次のとおり会計専門職専攻の目標を定めている。 「建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成」 本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)のスピリットを持ち、国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を持った職業会計人を養成する。 「国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成」 会計に関する国際的な教育基準に従って、グローバルな視野をもった世界に貢献し得る職業会計人を養成する。
☆ 小項目1.0.2	(現状説明) 会計専門職専攻のカリキュラムは、「コア科目群」、「ベーシック科目群」、「アドバンスト科目群」の三つの段階の科目群から構成されている。会計専門職専攻における授業方式は、講義、演習、ケーススタディなど、様々な方式の組み合わせにより行うが、そのいずれにおいても、少人数教育を実施し、学生の成績評価を厳密に行う。成績評価には次のような原則を設ける。①全科目において定期試験(筆記試験またはレポート)を実施する。②コア科目、ベーシック科目は、経営戦略専攻との合併科目を除き、原則として筆記試験を行う。③定期試験のみで成績評価をしない。出席状況、課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。④シラバスで成績評価の基準を明確にする。⑤コア科目、ベーシック科目は相対評価、アドバンスト科目は絶対評価とし、1クラスにおける各評価段階(A+～F)の割合を原則として定める。 「建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成」について、コア科目の必修科目として「会計倫理」という授業科目を設置している。また、キリスト教主義に基づく人格の陶冶を語る教育の一つとして、研究科大学院学生を対象とした「チャペルアワー」を毎週1回設けている。 「国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成」について、コア科目として国際会計論(必修科目)、ベーシック科目として国際会計基準論(A, B)、アドバンスト科目として英文会計、国際公認会計論等を設置している。
☆ その他	教育目的達成のためのカリキュラムの基本的枠組みとして各開講科目間の関係の履修プランとしての文書化を進めている。 より厳格な成績評価を行うために、絶対評価を加味した相対評価による成績評価を導入する。そのための評価方針を作成している。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	



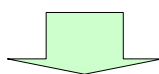
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目1.0.1	
★小項目1.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 現状説明は内容の充実した記述です。
- 目標に対する進捗評価がいずれも「D」となっております。改善すべき事項に次年度どのように改善するかの記事を期待します。
- 小項目1.0.1と1.0.2の現状説明は自治体会計コースにもあてはまるものでしょうか。
- 2008年に受診した分野別認証評価に関する要望事項(会計・監査をめぐる国際環境の変化は速いので、教育理念・教育目標等についても定期的に見直しを検討されることを要望する)への対応はいかがでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 1. 各開講科目間の関係の文書化については、各教員がシラバスに明記することを専攻会議で示達している。
- ★ 2. 絶対評価を加味した相対評価による成績評価の評価方針の作成については、授業評価FD委員会と連携して進める。